

続「永遠のあと百年」

—— 持続可能性の向上 ——



当社では、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、CSR、リスクマネジメント、内部統制等について、それらの言葉の意味や目的について理解を深め、昨年のビジネスレポートのコラム欄に載せました。

まず、当社は、これらの言葉が表す共通の目的を「企業の持続可能性の向上」であると捉えました。このように捉えれば、経営者の会社に対する信任義務をはじめ、法令を形式主義に陥らずその主旨に沿ってよりよく守ること、企業の経済的な成長だけでなく、企業を取り囲む環境への配慮、過大なリスクに対する自制、これらを回帰的なプロセスとして機能させる仕組み、など多くの要素を包含すると考えたからです。

企業を取り巻く事業環境や経済情勢など社会状況は時代とともに大きく変化します。変化する社会の中で会社の重要な意思決定をするときや、どのような組織の体制や体質・企業風土や文化を造り上げていくかを考えるときなどに、常にこの「持続可能性の向上」をキーワードにしています。

このキーワードは駐車場という本業のなかにも随所に活かされています。当社独自の駐車場形態である保有駐車場は、道路と並んでクルマにとって欠かせないインフラである駐車場が、ある日突然なくならないように地域の持続性と当社の持続性の両立を考えて開発したものです。還元方式も、土地オーナーと当社の長期的な共存共栄関係を構築するという発想から生まれたものです。これらの開発形態から「不動の地域一番戦略」につながり、一番となった地域ではさらにその持続性が向上するという好循環が生まれると考えています。軽自動車専用駐車場も事業としての採算性とCO₂排出量が普通車の60%という環境配慮の両立から発想したものです。駐車場内に設置してある飲料自動販売機の売上の1%を森林保全団体に寄付したり、社員による森林の間伐・植林活動も同様です。

また財務面においても、当社は保有駐車場用地の購入資金を主に金融機関から調達していますが、この資金は基本的に20年という長期の借入で賄い安全性を高めています。株主構成においても、取引先に株主になっていただき、事業上のシナジーと緊張感のある協力関係を構築するよう努めています。

今後とも「永遠にあと百年存続発展し得る企業体質」を目指してたゆまぬ努力をしてまいりたいと存じます。